

長崎研修旅行報告～火山災害・炭鉱住宅の視察～

10月12日～14日、集合住宅維持管理機構の理事長をはじめ12名が参加して長崎方面への研修旅行が挙行されました。研修の目的は、自然災害を学ぶことと、高経年鉄筋コンクリート造集合住宅を見ることの二点です。

雲仙普賢岳の噴火

1990年から1995年にかけて続いた噴火活動と火砕流、土石流の甚大な被害の概要を雲仙岳災害記念館（愛称「がまだすドーム」）と被災建物保存館で学び、これ以降、日本で続発する大規模な自然災害を想起しながら、災害対策の重要性を痛感しました。

池島炭鉱

三井鉱山の子会社、松島炭鉱株が島ごと買収して開発した採掘施設と従業員の社宅である鉄筋コンクリート集合住宅を見学しました。圧巻は崖の高低差を利用した8階建ての集合住宅で、基本的には階段室型ですが、崖の上からと下からアプローチすることができて5階に各階段をつなぐ廊下があり、8層分の階段を上るの必要はありません。

軍艦島（端島）

築100年の日本で最初の鉄筋コンクリート造の集合住宅を体験する予定でしたが、残念ながら直前の台風25号により栈橋や見学通路が損傷したため、上陸は叶わず、船からの見学となりました。日本の住宅研究の第一人者である、西山卯三とその門下の片寄秀俊の詳細な調査研究成果を改めて勉強する必要があります。



被災建物保存館～土石流によって1階が埋まった家屋



池島炭鉱社宅～廃墟となり蒿に覆われている



同上8階建集合住宅～横につながっているのが5階廊下



軍艦島の高層集合住宅